

原発事故から13年

フクシマを忘れない!

さようなら原発北海道集会

福島第一原発事故から13年が経過しようとしています。避難生活は長期化し、原子力緊急事態宣言はいまだ解除されていません。燃料デブリの取り出しも困難を極めるなか、廃炉の先行きも見通せない状態が続いています。燃料デブリに含まれる放射性物質は冷却水や雨水・地下水に触れ、高濃度の放射性物質を含む汚染水を発生させています。この汚染水を「多核種除去設備（ALPS）」で浄化処理していますが、放射性物質すべてを取り除いているわけではありません。

政府・東電は、2023年8月24日、漁民や県民など多くの反対があるにもかかわらず「ALPS処理水」の海洋放出を強行しました。福島第一原発は2051年までに廃炉作業の完了をめざしていますが、その間、処理水は発生し続けることになり、海洋放出が長期にわたることが懸念されます。

また、能登半島地震によって志賀原発のトラブルが相次いでいます。建設中止となった珠洲原発も震源地に近く、これらの原発が稼働し放射能災害も加われば、近隣住民の避難は困難を極めたことは明らかです。

私たちは甚大な被害と長期化させている福島原発事故を忘れず、改めて原発の危険性を訴えながら脱原発社会を実現していくため「さようなら原発北海道集会」を開催します。

日時

2024年

3月11日 月 (開場17:30) 入場無料
18:00-20:00

会場

北海道自治労会館 5階 大ホール
(札幌市北区北6条西7丁目)

講演

原発は動かしてはならない

— 能登半島地震と福島第一原発廃炉 —

原子力資料情報室事務局長

松久保 肇 さん

1979年、兵庫県生まれ。2003年国際基督教大学卒、2016年法政大学大学院公共政策研究科修士課程修了。金融機関勤務をへて2012年より原子力資料情報室スタッフ。2022年より経済産業省「原子力小委員会」委員。共著に「検証 福島第一原発事故」（七つ森書館）、「原発災害・避難年表」（すいれん舎）などがある。

「さようなら原発1000万人アクション北海道」実行委員会

事務局：北海道平和運動フォーラム ☎011-231-4157